

近江上布

【産地組合】滋賀県麻織物工業協同組合

（産地紹介）

愛知川の豊かな水と高い湿度といった環境や、近江商人の活躍等により、この地方では鎌倉時代から麻織物が発展しました。江戸時代には、琵琶湖東岸の彦根市の辺りを支配していた彦根藩の振興によりさらに発展し、安定した地場産業となりました。その頃から染めの技術も大きく進歩し、近江上布独特の上品な絰模様が生まれました。



近江上布は、「緯糸絰」と「経緯併用絰」があります。緯糸絰は主に緯糸を羽根巻にして「型紙捺染（かたがみなっせん）」を行います。また、経緯併用絰は両糸に「櫛押捺染（くしおしなっせん）」をし、経糸と緯糸の絰を合わせながら織るので最高級品となります。麻の特長として通気性・吸水性があり、肌に密着しにくい繊維なので、身につけるとさわやかな涼感、感触、軽さを持った近江上布は、今も伝統工芸士の手によって織られています。